

よき「パートナー」
として

男女とも、互いに相手の気持ちを理解することが大切です。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という性別役割分担意識や男性のライフスタイルが職場中心となりがちなこと
もあり、男性の家事・育児関連時間は少ないのが現状です。日常の生活をしていく上で、男性は女性に、あるいは女性は
男性に対して、日ごろどういう希望を持っているのでしょうか。また、その希望は現実のものとなっているのでしょうか。

ここでは、男女が互いに相手に対してどういう意見を持っているのか、それを解決するにはどのような方法があるのか
を、図で表してみました。



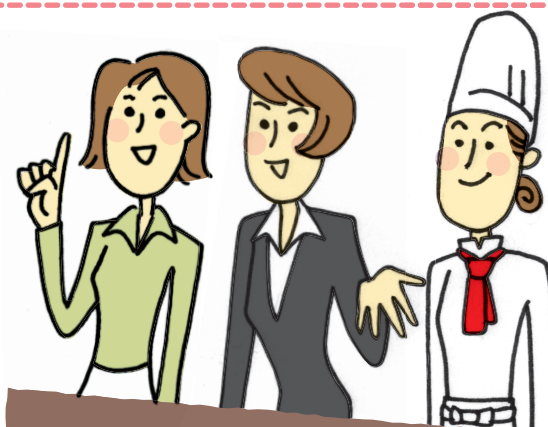
➡帰宅後のフリーな時間の確保

会社の理解を得て、個人に作業負担が掛かり過ぎないようにしましょう。
残業を減らして、帰宅時間を早めましょう。

残業時間が多く、
帰宅時間が遅い。



男性側の意見



女性側の意見



➡親子のふれあいを楽しむ

父親が子供とお風呂に入るのは、親子のスキンシップという意味で重要である
ということを理解してもらいましょう。

子供を
お風呂へ入れ
てほしい。

家事や育児をしたい
気持ちはあるが、
どうすればよいのか
分からない。



➡相手の考えを理解する

夫婦間のコミュニケーションを
密に取り合い、相手が何を
してほしいかを知りましょう。

家事や育児を
しようとしても、
「しなぐらぐら」と
断られてしまう。



➡二人で連携して家事や育児を行うことの大切さ

なるべく一人の負担を軽くするように、
分担できる事はできるだけ二人で行っ
ていきましょう。

「疲れているから」
と「つづが、疲れて
いるのはお互い様」



➡お互いの立場で物事を考える

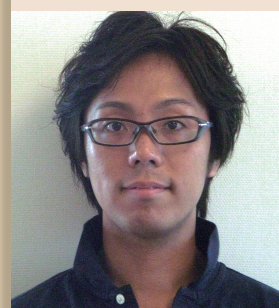
相手の立場になって物事を考え、
互いにどれほどの負担を抱えてい
るのかを理解しましょう。



➡相手に過度な期待をしない

相手は家事や育児の初心者です。
あせらず、少しずつできるように
アドバイスしていきましょう。

夫が家事や育児を
する際に、
自分の思うとおりに
やってくれない。



私が考える 子育て支援

「NPO法人こどもとくすり」
理事長・薬剤師
中村 守男さん

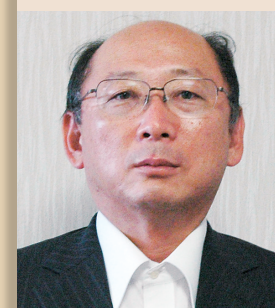
薬剤師であり、2児の父親でもある中村守男さんは、
NPO法人を設立し、子育てに役立つブログを開設する
など、積極的な子育て支援をされています。中村さんが
取り組んでいる活動についてうかがいました。

パパ薬剤師の子育てに役立つブログ
<http://ameblo.jp/b637528925/>

私は、医療・健康面から子育て支援をするため「NPO法人こどもとくすり」を
立ち上げました。具体的には子どもの医療・健康に関する調査研究やセミナー
講演等を行っています。この8月には、九州大学を中心とした「こども×くすり
×デザイン実行委員会」と共同で「こどもおくすり手帳けんこうキッズ」を開発
しました。これは、手帳を通じて子どもの医療・健康に関するサイトが閲覧で
き、小さな体調の変化にも気がつくよう健康観察ポイントをわかりやすく示す
など、子どもの健康をチェックしやすいように工夫して作ったものです。

また、薬剤師と患者との情報格差をなくしたいとの思いから、昨年9月に
「パパ薬剤師の子育てに役立つブログ」を開発しました。これは、子育て中の
親と薬剤師という両方の立場から、主に子どもの医療・健康に関する情報や自
らの育児体験談を掲載しています。

これからも、育児中の父親たちに対して、子育てに前向きに関わることで
どれだけ家族が幸せになるか、ということを伝えていきたいと思っています。



当社が考える 子育て支援

鹿児島テレビ放送株式会社
総務局 総務部長
藤本 武文さん

鹿児島テレビ放送では、社員の子育てを応援するた
めに、子どもの看護、育児のための制度を取得できる期
間を国が定める期間より延長されています。企業として
子育て支援にどのように取り組んでいるのかをうかが
いました。

当社では、子どもの看護休暇・育児のための所定外労働時間の免除
期間や育児短時間勤務を取得できる期間を、法律の基準より延長して
います。

看護休暇の対象期間は、法律では子どもが小学校に入学するま
での期間ですが、当社ではさらに3年間延長しています。また、所定労働
時間の短縮・所定外労働時間免除の期間も法律では、子どもが3歳に
なるまでの期間となっていますが、当社ではさらに延長して小学校に
入学するまでの期間としています。制度の利用実績もあり、他にも、ベ
ビーシッター券を購入し、希望者に支給するという取り組みを行って
います。

子どもがある程度大きくなるまでは、親が子どもの面倒をしっかり
見る事ができる会社として子育て支援に取り組んでいます。